

【待機場所について】

* 団体等の待機場所は以下のとおりです。

レクリエーション広場の外周は工事のために使用できません。待機場所としてテントなどを使用できる場所は以下の通りです。

- ①北陸上競技場の北、フェンス外側の植え込み。（**競技場フェンス側のみ使用可**）
- ②北陸上競技場の南、フェンス外側の植え込み。
- ③北陸上競技場の西、スタンド外側。（**通路は確保してください**）

場所の割り振りはしません。各団体で譲り合って使用してください。

上記以外の瑞穂公園内・野球場の軒下・地下駐車場等は使用しないでください。

競 技 注 意 事 項

1 本大会は2025年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会要項によって実施します。

2 アスリートビブスについて

- (1) 本年度の登録番号をユニフォームの胸、背に確実につけてください。
跳躍種目は、背または胸につけるだけでも構いません。
- (2) トラック競技のうち800m以上の種目に出場する競技者には、写真判定用の腰ナンバー標識を配付します。ランニングパンツの右横やや後方に、そのままの大きさと正確に数字が読めるようにつけてください。
- (3) 腰ナンバー標識はフィニッシュ後、直ちに係（フィニッシュ前方スタンド側）に返却してください。

3 ウォーミングアップについて

- ・ウォーミングアップ場は、レクリエーション広場とします。最終種目の招集開始時刻まで使用できません。
- ・**地下駐車場・野球場軒下・競技場西側通路・競技場北側でのウォーミングアップは禁止です。**
- ・大会準備のため、**最初のトラック競技開始15分前に一旦すべての練習を中止してください。**
- ・競技実施中も競技進行に支障がない範囲で競技場のコース使用を認めます。競技役員の指示に従い安全に配慮して行ってください。
- ・レース前のスタート練習については、係の指示に従ってください。
- ・フィールド種目は競技開始前に各ピットで競技役員の指示に従って練習を実施してください。
- ・競技場では、持込の牽引用チューブやミニハードル等の使用は禁止します。
- ・競技開始15分前まで、練習の各ハードルの置き方は以下の通りとします。
 - 1日目 400mHは、5～6レーンを女子用、7～8レーンを男子用の高さとしします。
 - 2日目 3レーン中学女子100mH、4レーン女子100mYH、5レーン女子100mH、6レーン中学男子110mH、7レーン共通男子110mJH、8レーン男子110mHとしします。

4 招集について

- (1) 招集所は200mスタート付近倉庫前に招集所に設けます。すべての種目の招集をこの場所で行います。
- (2) 招集の受付は本人が行ってください。時間に遅れたものは棄権とみなして出場を認めません。
- (3) 招集開始時刻及び招集完了時刻は、当該競技開始時刻を基準として、次のとおりとします。

	種 目	招集開始	招集完了
トラック競技	すべての種目	30分前	20分前
フィールド競技	棒高跳び以外の種目	50分前	40分前
	棒高跳	70分前	60分前

- (4) 特別の事由がある場合、招集開始時刻前の招集を認めますので競技者係主任（招集所）へ事前に申し出てください。
- (5) リレーのオーダー用紙は、すべて**1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所へ提出してください。**

5 競技場への入退場について

(1) 入退場は、南北側ゲートのみとします。

6 レーン順・試技順について

- (1) トラック競技のレーン順およびフィールド競技の試技順は、プログラムの数字で示します。
 (2) 欠場者のレーンは100m～400mの距離の種目では空けます。その他の種目については競技役員の指示に従ってください。

7 競技について

(1) トラック競技

すべての種目をタイムレースとします。

- ①この大会のスタートは競技規則TR16によって実施します。
 ②すべて写真判定装置を使用します。
 ③短距離競走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も割り当てられたレーン（曲走路）を走ってください。
 ④同タイムの着差は、1000分の1秒差までで判定します。
 ⑤リレーのユニフォームについては、ユニフォームの形状を統一する必要はない。ただし、デザイン・配色（マーク）は統一すること。

〔TR5. 1〕国内

全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。

- ⑥以下の時間に最終周回に入らない場合は競技を打ち切ります。
 男子5000m20分、男子3000mSC12分、女子3000m15分

(2) フィールド競技

長さを競う種目はすべて3回試技とします。

- ①フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従ってください。
 ②投てき競技の計測は、光波測定器を使用します。
 ③フィールド競技で、助走路に使用できるマーカーは主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができます。また、サークルから行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用できます。
 ④三段跳の踏切板は、男子10m・女子8mで行います。
 (3) 競技者は、勝手に競技場所を離れることや競技規則TR6. 3. 2で禁止されたビデオ装置・ラジオ・CDプレイヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することができません。
 (4) 不当な行為をした競技者には警告が与えられ、場合によっては当該競技から除外されます。警告は黄黒色（斜め半分形）のカード、除外は赤黒色（斜め半分形）のカードを示すことによって競技者に知らされます。

8 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

(ただし、天候等の状況により変更する場合があります。)

	練習A	練習B	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m40 1m80	1m65	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m85までは5cm、以後3cm
男子棒高跳	3m00	4m00	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	以後10cm
女子走高跳	1m25 1m60	1m45	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m65までは5cm、以後3cm
女子棒高跳	2m20		2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	以後10cm

※練習はいずれかの希望する高さで行うことができます。

9 競技用器具について

競技に使用する器具は主催者が用意したものを使用しなければなりません。ただし、やりについては、競技場に無いもの、もしくは1つしかない物の場合は持ち込みを認めますので、希望者は各競技の招集開始時刻の1時間前から招集開始時刻までの間に南側器具庫（フィニッシュライン付近）でやりの検査を受けてください。検査に合格したやりは、預かり証を発行の上、一括借り上げし、参加競技者間で共有できるものとします。

10 競技用靴について（TR5参照）

スパイクの長さは9mm以内とします。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とします。スパイクは先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければなりません。なお、スパイクの数は11本以内です。

規定に合致しない靴は使用出来ませんのでご注意ください。使用した場合は失格となります。

※競技規則TR5シューズに関するルールによって、靴底の厚さが20mmを超えるシューズは使用不可です。

※靴底の厚さが適正であるかは、[承認シューズリスト \(https://certcheck.worldathletics.org\)](https://certcheck.worldathletics.org) で確認をしてください

11 瑞穂北陸上競技場の使用について

清掃・ゴミ処理は、各学校、各自で責任を持って行き、環境美化に努めてください。

ゴミ問題は深刻な状況です。各自「ゴミの持ち帰り」をお願いします。
他人に迷惑をかけないよう互いに気を配り、自宅への持ち帰りにご協力ください。

12 一般的注意事項

- (1) 本大会はコンピュータを活用して競技会運営を行いますので、氏名・所属等の間違いがあれば本部に申し出てください。
- (2) 更衣室は更衣のみに使用し、荷物は置かないようにしてください。更衣後の荷物は各自で管理してください。
- (3) 貴重品類は、各自で保管してください。万一の事故があっても、責任は負いません。盗難には十分に注意してください。
- (4) 応急処置を必要とする事故が生じたときは、医務室において処置が受けられます。なお、応急処置後の治療は、本人負担とします。
* 本競技会の結果は、記録速報のほかリザルトが公表されます。結果には、順位・記録のほか選手の氏名・所属・学年を含みます。

愛知陸協強化委員会医事部会が、競技者のコンディショニングと応急処置に当たっています。けがの治療だけでなく相談業務も受け付けていますので、積極的に医務室をご利用ください。なお、テーピング用のテープは利用者が持参してください。

◆競技者の人権保護の観点から、写真・ビデオ撮影について以下の点にご協力ください◆

- ※ 保護者および本人の了承がない撮影を禁止します。
- ※ 撮影禁止エリアは下記のとおりです。
 - ◎ 各種目のスタート後方
 - ◎ 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳の助走後方と着地前方
 - ◎ 走高跳マットに向かった正面（クリアランス動作中）
- ※ 選手がスターティングブロックの足合わせを行っている間や試技を待っている間、身体を動かしている間など競技の準備を行っているときの撮影を禁止します。
- ※ 他者に著しく迷惑をかける行為と主催者が判断した場合は、速やかに警察及び関係機関に連絡します